

高等教育コンソーシアムみえ News

三重創生ファンタジスタ養成、高等教育コンソーシアムみえ及び各構成機関の情報誌です！

高田短期大学の地域連携事業 商品開発プロジェクト

「ISE芋でつながろう2021」始動！

高田短期大学では、地域社会と連携した様々な取り組みを行っています。キャリア育成学科オフィスワークコース川喜田ゼミでは、一身田寺内町活性化事業として、「高田会館あかり屋」、和菓子店「春の舎」とともに、「ISE芋でつながろう2021」プロジェクトを立ち上げ、多気町産伊勢芋の皮パウダーを、どら焼きの皮に練り込んだ和菓子「サンジノイセイモ」の商品開発を行いました。



写真左：
プロジェクト立ち上げの様子

写真右：
学生同士が真剣に議論しながら商品開発のイメージを共有する様子



商品名、形状、パッケージシールと梱包用のボックスデザインのすべてを学生が考案、5月に商品が完成しました。商品のお披露目として、5月21日・22日に高田本山専修寺で実施された「親鸞聖人降誕会・お待ち受け法会」でのイベント「高田会館物産展」において、ゼミ生が商品のPRと販売活動を行いました。学生達は販売促進用のポップやポスター、商品コンセプトを盛り込んだPRビデオを作成し、会場ステージで投影しました。

ゼミ内で様々なアイデアを練り、高田会館に何度も足を運び打ち合わせを重ね、完成した「サンジノイセイモ」。プロジェクトの成果を地域の方にお披露目できる良い機会となりました。その甲斐もあって、2日間で600個を完売することができました。

今後も、オフィスワークコースでの学びの成果披露の場となるよう、充実させていきたいと思っております。



写真：開発した商品

(キャリア育成学科オフィスワークコース川喜田先生)

2021年度みえまちキャンパス参加校より 研究室紹介

令和4年2月19日に令和3年度みえまちキャンパスが実施されました。いつも興味深い発表を行う鳥羽商船高等専門学校から2件の研究をご紹介します。

【自転車発電の開発】

鳥羽商船高等専門学校西山研究室からは、被災時に小電力の非常電源として活用する自転車発電装置の開発を発表しました。技術系の発表の多くは、開発品の説明を含む成果が中心です。一方、本発表は開発過程における協業・協力姿勢の紹介であったため、慣れないプレゼンテーションという結果になりました。本発表を通して、協業・協力姿勢を見直すことができ、開発体制へのフィードバックができました。本当に良い機会でしたので、今後もみえまちキャンパス活動を継続します。

(鳥羽商船高等専門学校 西山先生)

【ナキリデマルシェ支援のための入場者カウントシステムの開発】

鳥羽商船高等専門学校北原研究室では、ナキリデマルシェを支援するための入場者をカウントするシステムを開発し、2021年度の「みえまちキャンパス」へ参加しました。ナキリデマルシェとは一般社団法人じゃまテラスが主催する町おこしイベントです。志摩市大王町波切において毎月第4日曜日に食品、衣類品、日用品、古本などの店、10店舗以上が路上や広場に开店されます。主催者から「イベントを盛り上げたいがコロナ禍で危険である。ナキリデマルシェに訪れる人数を知り、密集を防ぎたい」との要望がありました。また入場者数を把握したいが手動によるカウントは人手不足で行えないため、入場者数の把握もかねて本システムを開発しました。

本システムは、消毒用アルコールディスペンサーにつけたマイコンでアルコールを噴射する動作を読み取り、カウントを+1としてWi-fiモジュール経由で本部のPCにデータを送信します。送信データはデータベースへ格納され本部のPCではリアルタイムで、3か所の入り口からの入場者数が把握できます。



写真：カウントシステム

今後は月に1度の波切マルシェで実証実験を行い、現地の方の意見を聞いて改良を重ねていきます。

(鳥羽商船高等専門学校 北原先生)

高等教育コンソーシアムみえ News

三重創生ファンタジスタ養成、高等教育コンソーシアムみえ及び各構成機関の情報誌です！

前期 集中講義日本理解特殊講義

「医療健康福祉実践」が開講しました。

三重創生ファンタジスタオリジナル科目である前期集中講義「日本理解特殊講義（医療・健康・福祉実践）」では、三重県の重点課題である医療・健康・福祉に対して、主に僻地（離島）医療の観点からフィールドワークを含めたオンライン形式による学修を行います（担当：三重大学 志垣先生）。履修者は6名（三重大学5名、鈴鹿医療科学大学1名）。

・7月9日（土）10：30～17：00 オンライン・ライブ形式
空飛ぶクルマを活用した地域課題の解決

（三重県デジタル社会推進局）

地方の孤立・生活支援（志摩市社会福祉協議会）

学生による発表

空飛ぶクルマやドローンを活用した三重県の取組、課題について、既存航空機との違いを比較しながら話していただきました（写真1）。



写真1：空飛ぶクルマ三重県の取組を海外で紹介

午後からは、志摩市社会福祉協議会より間崎島の買い物支援の実現までの過程を紹介していただきました。住民が主体的に役割を担い、社協は寄り添う形で支援する様子を紹介していただきました（写真2）。

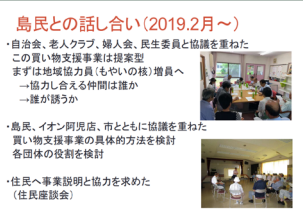


写真2：間崎島の島民と今後を話し合う場

学生の声（三重大学医学部医学科1年）：空飛ぶ車について、どちらかといえば今ふつうに陸上を走っている車を思い浮かべていましたが、実際はヘリコプターのようなイメージであると知って驚きました。ドローンの地域での活用事例をみても、空飛ぶ車の可能性は未知数だと思いました。未来が楽しみです。また、間崎島のもやいの話では、地域の中での人間関係についてリアルな声をきくことができ、そう簡単にはいかない地域のつながり作りの現実をみたくしました。

みえ学生防災啓発サポーターの養成講座を開催します。

三重県と三重大学が共同で設置した「みえ防災・減災センター」では、令和4年度に、県内の大学生や20代の社会人、

高校生を対象として、若者向けの防災情報の発信や地域の防災活動を支援する役割を担う「みえ学生防災啓発サポーター」を養成することになりました。

【主な活動内容】

- ・防災啓発・活動のための基本講座（6月19日）
- ・[選択1]子供を対象とする「防災キャンプ」の企画・運営（8月9日～10日）
- ・[選択2]東日本大震災の被災地での「災害ボランティア」（11月25～27日）
- ・学生消防団員として活躍する学生との交流（12月10日）



写真：HUGの様子

【基本講座】

6月19日には、本事業のキックオフミーティング「基本講座」を開催しました。午前中は三重県の防災文化づくりについて学び、午後は避難所運営ゲームHUGを実施しました（写真）。また、11月に計画している宮城県での防災研修旅行&災害公営住宅でのボランティア交流会についての説明会がありました。参加した55名の若者のうち、この大変な遠征に49名が希望してくれました。参加した若者の防災への熱意が、三重の防災力アップにつながることを願っています。（四日市大学鬼頭先生）

後期 集中講義 合同開催講義

「三重学 食と観光実践」が開講します。

四日市大学、鈴鹿大学、皇学館大学、三重大学の合同開催で後期集中講義「三重学・食と観光実践」が開講します。今回は、県道である通称「サニーロード」を基軸とした南伊勢町、度会町、玉城町という3町をフィールド対象に、「体験・教育の旅を企画、発表する」がテーマです。単位互換の対象科目ですでの興味のある学生にお声をかけてください。なお、希望する学生については、各大学の所属学部の窓口へ所定の期間内に出願書類を提出してください。【参考URL】<https://conso-mie.jp/credit/>

NHK東海どまんなか！

「課外授業 東海の私たちが地球を救う！」出演

7月22日（金）NHK東海どまんなか！「課外授業 東海の私たちが地球を救う！」に四日市大学鬼頭先生が出演し、四日市市コンビナート企業が脱炭素を意識して貢献できることは何かを高校生に解説しています。（アーカイブ配信有）

発行元：高等教育コンソーシアムみえ 事務局
連絡先：059-231-9969

下記の機関で三重創生ファンタジスタの養成をしています。

三重大学、四日市大学、皇学館大学、鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部、鈴鹿医療科学大学、三重県立看護大学、四日市看護医療大学、三重短期大学、高田短期大学、ユマニテク短期大学、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、近畿大学工業高等専門学校、三重県

